

### 1. はじめに

冬期休みから空咳含めひどい咳が2,3週間ほど続き、咳がおさまった後も2月中旬から耳だれが再発するなど体調面での管理があまり上手くいかず、RITのヘルスセンターに2回もかかることができました。そのことから感じたことを今回は述べたいと思います。

### 2. RIT Health Center

もともとアメリカの治療費は高いと聞いていたため、できる限り行くのは控えていた、行かないで済むようにしようと考えていたのですが、さすがに悪化する一方だったので、Health Centerに2度ほど伺いました。そのときにRITのInsuranceに入っている高いものは高いと思知らされたことが、学内のHealth Centerだけでも1回の診察料は40ドルということでした。

1回目の咳のときは、問診をするだけで後はこれに書いてある薬を買いに行つてと言われて終わりでした。ウイルス性の風邪ということで熱があるならこの薬、鼻水ならあの薬という風邪の処方一覧みたいなのを渡されて近くの薬局に買いに行つてというだけで、咳に効く薬はないから加湿器買って乾燥しないようにしてとだけ言われて終わりました。個人的には、さすがに1週間以上続き市販の咳止めドロップはむしろ逆に咳き込むため、吸引器だったり咳を抑える薬があったりするのかと思いましたが、そのようなものはありませんでした。ELCの講師も1週間休むことがあるので、病気などのときはとにかく休むことがアメリカでは重要視されていると感じました。

2回目は今月、耳の痛みと耳垂れがでてきて見てもらいに行きました。もともと鼓膜にチューブを入れているためか1,2年に1回ぐらいの頻度で耳垂れがあるのですが、さすがに痛みがあったため、最初に耳垂れと痛みがあつて耳に鼓膜用のチューブいれている旨などを説明して、はっきりと点耳薬をくれと言うと、それが功を奏したのかどうかは分かりませんが無事に日本で処方してもらったものと同じような点耳薬を処方してもらえました。しかしながら、それが30ドルだったことも驚いたのですが、RITのInsuranceに入っていないと256.18ドルを払う必要があるとのことで、国民皆保険制度がないアメリカという国が本当に自己責任の国であると考えさせられました。同時に、昨今、色々と日本の保険制度のあり方が話題になっていますが、日本の保険制度は素晴らしい制度であると実感した良いきっかけになったと思っています。

ところで、処方箋はアメリカに存在するのか薬を受け取る時どういえばいいのかという質問した際に、回答が聞き取れないことがあつたため意味が掴めないという旨を伝えたら、電話機を持ってきてオペレーターを介した同時通訳サービスをしてくれました。練習として使ってみたといっていたので、不慣れそうな感じ、やり方わからないよハハハみたいな相談しながらドクターともう1人が話していたので、多分、これから導入されるシステムじゃないかなと思います。そのマニュアルをチラ見することが出来たのですが、10カ国語ぐらいサポートしているようで、留学生が多い故に導入するのかなと思いました。

### 3. おわりに

常に健康体でいることは大事ですが体調不良で逆に得られた知見もあつたので、そういったことはある意味で大変な事になったと思います。しかしながら、やはり発症中は嗚咽くような咳だったり寝られないぐらい耳が痛かったりと本気で危険を感じたのでとにかく症状を把握して対策することが重要であると感じました。正直Health Centerに行く前はアメリカの病院がどこか信用できない、忌避感があつたのですが、症状が分かるドクターに相談することは、留学中の身としては、それだけでも安心できることがわかりました。